

たき火体験・防災ご飯作り

概要・教育的効果

災害時にガスや電気が使えない場合を想定し、たき火とポリ袋炊飯を体験します。安全な火の取り扱い方や火の危険性、保存食の大切さについて考え、防災について学ぶことができます。事前学習や事後学習を行うことで、普段の生活にも生かすことができます。



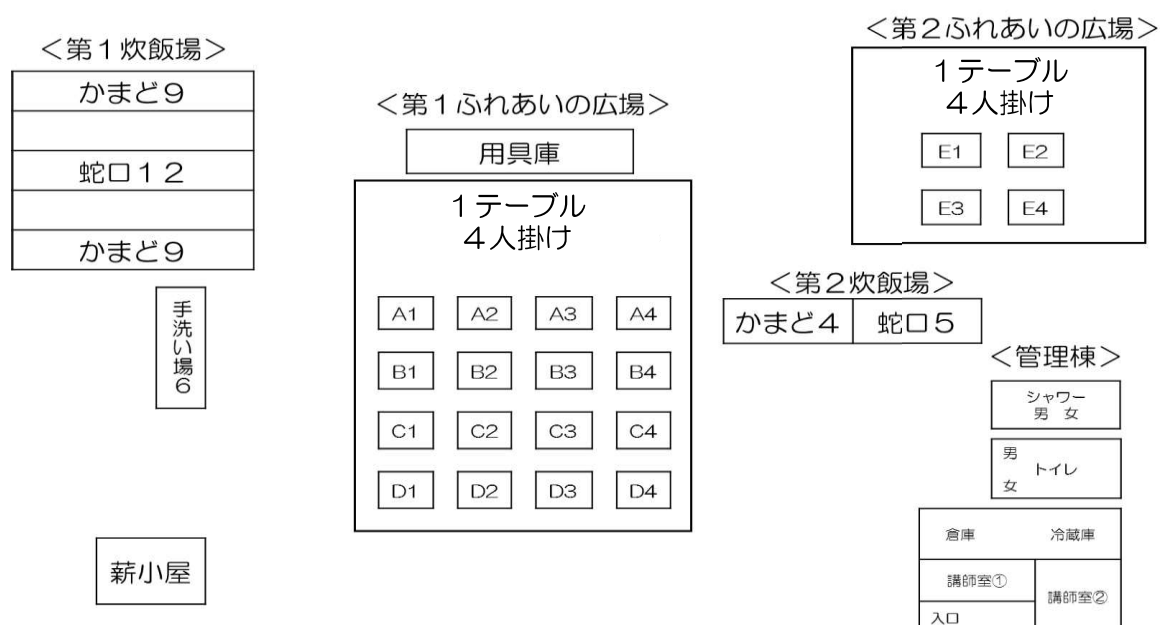
1 活動計画立案にあたって

期 間 等	3月～12月 ※冬季は防寒具が必要					
指 導 形 態	職員が指導		引率者数	2名以上		
対象・人数 班 編 成 等	① 小学校4年生以上，10～40名まで ② 各班4名程度が適当，10班まで					
実 施 場 所	野外炊飯場（キャンプ場の中にあり，配置・設備は次ページ参照）					
所 要 時 間	準備，後片付け，点検の時間を含めて4時間程度					
経 費	活動費：1人 100円，材料費（詳細はP.16参照）					
献 立	ポリ袋ご飯（耐熱ポリ袋付き） 豚汁（調理済） *おかずとなる缶詰は各自持参					
当施設が貸し出すもの	物品名	数 (1セット分)	物品名	数 (1セット分)		
	かまど	1	ファイヤースターター	1		
	計量カップ	1	アルコール消毒液	1		
	フライパン（なべ）	1	検査用保存食袋	1		
各団体で持参するもの	カセットコンロ	1				
	物品名	売店販売	物品名	売店販売	物品名	売店販売
	カセットコンロ用ボンベ	○	ふきん・ぞうきん (各班3枚程度)	○	食器用洗剤	○
	はし・スプーン	○	キッチンペーパー (用具の仕上げ拭き)	○	スポンジ・たわし	○
	どんぶり（ごはん，豚汁各1つ）	○	ガスライター	○	救急薬品 虫よけスプレー	×
	缶詰	×	マッチ	×	軍手（綿のもの・ゴムがついていないもの）	○
缶切り (必要に応じて)	×					
ゴミ袋（燃えるゴミと残飯をまとめるゴミ袋を1枚，食堂より提供します。処分可） *空き缶等のゴミについては，ゴミ袋を売店で購入した場合のみ，こちらで処分可						

2 標準的な日程（※夕食にあてる場合は、15:00開始を目安に計画）

時間	活動の流れ	役割	内容
8:50~ 9:00	玄関前集合	引率者	玄関前整列指導, 活動者掌握, 事務室に集合の報告
	移動	引率者	職員とともにふれあいの広場へ移動
9:00~ 9:30	全体指導	職員 引率者	諸注意, 施設用具の貸出, ポリ袋炊飯準備
9:30~11:00	たき火体験		たき火についての指導, 体験
11:00~12:00	調理		ポリ袋炊飯, 保存食についての指導
12:00~12:30	食事	引率者	検査用保存食の準備・提出
12:30~13:00	後片付け	引率者	用具等の洗浄, 清掃, ゴミ処理, 火の始末
	点検・返却	職員	点検, 確認, 返却

【実施場所】※各炊飯場およびふれあいの広場には、屋根があります。



3 実施上の留意点

- (1) 「野外炊飯材料等注文用紙」を利用日の3週間前までに当所へ提出してください。
- (2) 衛生管理上、未開封の缶詰を除き、食材の持込みはできません。また、手や調理器具等の洗浄を充分に行い、食中毒予防に努めてください。
- (3) 活動中の飲酒、喫煙はできません。
- (4) 利用日の5日前以降の材料の変更・キャンセルはできません。
- (5) お米（調理用耐熱ポリ袋付）は1人分単位の注文ができます。豚汁は8人分・4人分単位の注文となります。お米の分配は、各団体で行ってください。
- (6) 食材の受け取りについては、入所後の食事数確認の際に売店で確認します。
材料の受け取り時刻・・・昼食用は9:00以降、夕食は15:00以降調理済みの豚汁は職員の案内を受け、食堂で受け取ってください。
- (7) 食品衛生法により、調理したごはん（50g程度）を検査用保存食袋に詰め、速やかに食堂「グリルのと」まで提出してください。
- (8) 食堂「グリルのと」で購入された食材等のゴミは、食堂の指示に従い処理してください。（もえるごみと残飯をまとめて袋に入れてください。）
- (9) 借用物は、よく洗浄してから持参したふきんやキッチンペーパーで水分を拭き取り、職員の点検を受け、元の場所に戻してください。かまど及び使用場所は、使用后、必ず清掃してください。